

植生保護柵を早池峰山に設置しました

ヒメコザクラなどの希少植物等をニホンジカの食害から守るために、早池峰山周辺森林生態系保護地域内に植生保護柵を設置しています。

今年は、例年より残雪が少ないことや、既に早池峰山周辺でのニホンジカの見撃情報が報告されていること、葉が出る前の作業が効果的であることから、昨年度より早い、5月12日に植生保護柵の設置作業を実施しました。

今回の作業は、昨年10月に植生保護柵の撤去（保護網取外し）したものを再設置（保護網取付け）するものであり、参加者は、支署長や職員6名のほか、東北森林管理局職員2名、遠野市役所職員1名の計10名です。

当日は、総括森林整備官より登山における注意事項の説明を受けてから総合案内所前（河原の坊）を出発し、遠野支署が設置している標高の一番高い場所の植生保護柵を目指して登り始めました。今は通行禁止となっている登山道のほとんどは、天然の大きな石が転がる溪床の側面を歩くことが多く、また高低差がかなりきつく、運動不足もあったとは思いますが足がなかなか前へ出なくなり、到着するころには膝が笑っている状況になりましたが、約1時間30分で目的地に無事に到着できました。

設置箇所では、本日の作業内容と注意事項の説明があったのち、2班に分かれて作業を実施しました。4月に転勤してきたため初めて参加したので、ロープの結び方を覚えるのに多少時間はかかりましたが、昼食を挟みながら設置作業は順調に進み、約1時間で2箇所の植生保護柵の再設置を完了です。その後は下山しながら、遠野支署設置（1箇所）及び岩手県設置（2箇所）の計3箇所の再設置を完了しました。今回の作業は、足場の悪い場所での作業ではありましたが、作業の連携も良く、ケガ等もなく安全に作業を終えることができました。

下山時には、笑っていた膝も治り余裕もあったので、山の雄大さや、山の空気の爽快さを感じながら、大自然を満喫しつつ、なぜか、職業柄溪床の状況を確認している自分がいました。

希少植物が、高地で花を咲かせている光景にたくましさを感じ、私自身も今後、また参加できるように健康づくりに励みたいと思いました。

遠野支署

主任森林整備官（土木担当）

鈴木 徹



作業前後



ヒメコザクラ



ヒメイチゲ